

今週のメニュー

■トピックス

◇パンフレット「ZEBの実現のために」を公表

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(38)

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇パンフレット「ZEBの実現のために」を公表

「[ZEB^{注1\)}](#) / [ZEH^{注2\)}](#)の実現を考える会(委員長：芝浦工業大学建築学部秋元教授)」の3年間の活動成果をまとめ、ビルへの樹脂窓普及を促進するパンフレット「ZEBの実現のために」を作成し、塩ビ工業・環境協会の総会懇親会(5/21)において、秋元教授より発表していただきました。

塩ビ工業・環境協会では、2016年より3年間「ZEB/ZEHの実現を考える会」を設置して、産学官の連携で、ビルへの樹脂窓の普及を目指した研究活動を行ってきました。その活動の一部は、ホテル・老健施設での窓種の違いによる温熱環境測定結果については[メルマガNo.600](#)で、集合住宅における樹脂窓を使用した場合の温熱環境測定紹介については[メルマガNo.615](#)で紹介してきました。この活動の結果として、樹脂窓を採用したホテル・老健施設・集合住宅において、非採用(アルミ単板ガラス窓)の場合に比べて、室内温熱環境の改善や結露の防止、省エネの効果があることが明らかになっています。

秋元教授からは、まず地球環境問題に関して、パリ協定で我が国が発表した中期目標を達成するために、2030年までに民生部門で40%のCO2削減が喫緊の課題であること、また健康福祉の面で、建物の中でのウェルネスは落とすべきではないこと、その両立を図るためにZEBが有効であり、樹脂窓の採用が必要なことを紹介されました。つづけて、3年間の活動によって、ZEBの技術や樹脂窓の効果・使い方を、易しくわかりやすく説明するパンフが作成できたことを報告されました。最後に、ここに集まる関係者が樹脂窓のソムリエとして、「どういうもの」を、「どういう場面」で使い、「どのような効果があるか」を知らしめて欲しいと激励されました。



パンフレットの表紙

パンフレットの内容の一部をご紹介します。全体で7章からなります。

1. ZEB って何?
2. 建物はどこでエネルギーを使っているの?
3. どうすれば、エネルギーを上手に使えるの?
4. ZEB を実現する省エネルギー対策はどんなもの?
5. 室内温熱環境には、何が影響しているの?
6. どうすれば、室内温熱環境が良くなるの?
7. 樹脂窓による効果の実例紹介

オフィスビルやホテルの場合、全体のエネルギーの4割以上が空調関係で消費されます(図1)。

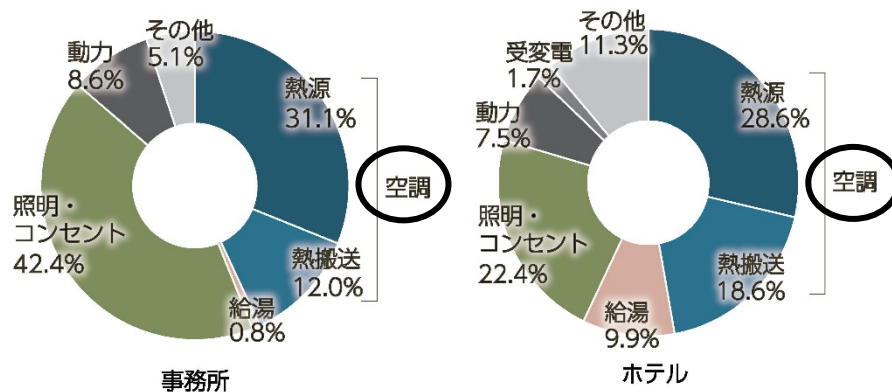


図1 エネルギー消費先別の割合

出典) オフィスビル・ホテルの省エネルギー ((一財) 省エネルギーセンター) を元で作成

さらに、例えばアルミ単板ガラスの窓集合住宅の場合、冬期には壁や天井などから外部に逃げる熱の内、40%が窓を経由して逃げていきます(図2)。他の要素を同じにして窓だけをLow-E 複層ガラスの樹脂窓に変更した場合には、窓を経由して逃げる熱は12%まで削減することが可能です。

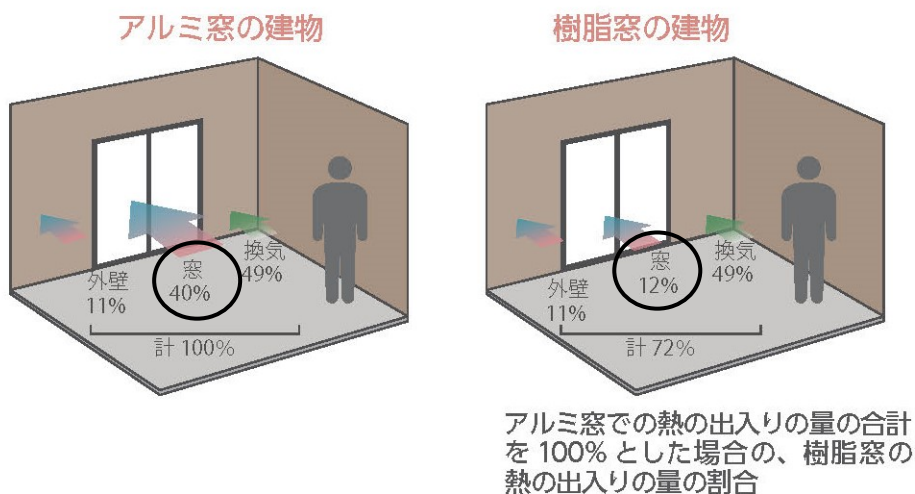


図2 冬期最寒日における1日合計の熱の流出量の割合

建物に樹脂窓を設置する場合、新築はもとより、改築の場合にも内窓を設置する方法

や、アルミサッシ枠の一部を残してその上から樹脂窓を取付けるカバー工法があります。

樹脂窓を採用した高性能住宅への転居前後において、風邪をひく、咳が出る、手足が冷える、皮膚のかゆみの症状を訴える人(有訴者)の割合が顕著に少なくなるといわれています(図3)。

パンフレットの最後には、建築学会などで発表したリゾートホテルと老健施設で行った実測の結果も紹介し、具体的に温熱環境向上や結露防止の効果を示しています。

本パンフレットは印刷物として、サッシメーカー各社からお客様に配布されるほか、塩ビ工業・環境協会のホームページよりダウンロードすることができるようになります(作業中)。

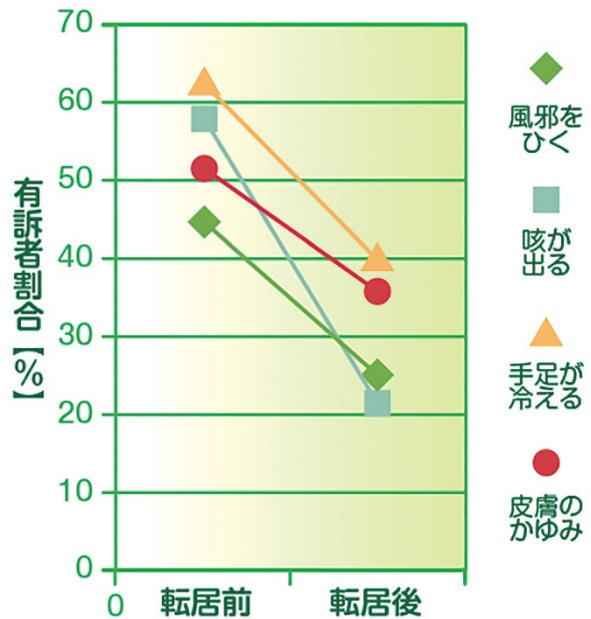


図3 各症状の有訴者の割合

出典) 一般社団法人健康・省エネ住宅を推進する国民会議

皆様、是非本パンフレットをご覧ください、地球環境にやさしく建物の環境も改善するZEBを達成するために、樹脂窓のより一層の普及が望まれることをご理解いただけると幸いです。

なお2019年度からは、「ZEB/ZEHの実現を考える会」は、秋元教授を委員長とする2つの研究会、「窓から病院・老健施設の空気環境を考える研究会(仮称)」と「開口部廻りから窓の遮熱を考える研究会(仮称)」に分割して、より発展的な活動を目指します。

注1) ZEB (ネットゼロエネルギービルディング)

注2) ZEH (ネットゼロエネルギーハウス)

■ 随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(38)

木下 清隆

<前回とのつながり>

前回までに祭神が、櫛玉命から大若子命へ替られたことと、その時期を論じたが、博多櫛田神社の祭神については、戦前から女神説が郷土史家の間で根強いようである。これは、本来は女神であったものが、男神の大若子命に変更されたという説である。今回は、この問題を論じることにする。

6 祭神の継続問題

博多の櫛田神社の祭神は大若子命である、との証明を以上までに行ってきたわけであるが、この祭神はずっと変わらなかったのかとの祭神継続問題が残っている。筑紫豊氏の説のように本来は、豊鍬入姫命であったとの説に立てば、当然途中で現在の祭神に変わったとしないといけないが、本考では、櫛玉命から大若子命に変えられて以降、その後は一貫して大若子命であったと考えている。そのような一貫性を保証するような資料は残念ながら見当たらないが、



博多 櫛田神社

有力な史料としては、前掲の貝原益軒の『筑前国続風土記』くらいしかない。この風土記に櫛田社の主祭神として大若子命が記されていたのは先に見たとおりである。

ところが筑紫豊氏は、『櫛田神社祭神考』の中で同じ風土記を引いて、「……と記しており、その櫛田の神が、やはり『倭姫命世記』によって、大若子(大幡主)命とされていることを知るのである。」と述べている。要するに、本来は別の神であったのに、『倭姫命世記』によってその祭神が大幡主命に替えられ、そのことが『筑前国続風土記』に記録されているとの主張である。然しながらこの主張には、次のような三つの問題点を抱えている。

一つは『倭姫命世記』から益軒が直ちに、櫛田神社の祭神は大幡主命であると導くことが出来たのかという問題である。この『倭姫命世記』が江戸時代一般的に知られるようになったのは、寛文元年(一六六一)以降のことであることを先に示したが、確かに風土記の方がこれより五十年程後に編纂されている。従って、この事実を知っていた益軒が祭神を大若子命と書いた、と推測することは出来る。然しながら、この当時、伊勢の櫛田神社そのものは存在しておらず、その祭神は学者の間では未だ櫛玉命とされていた時代である。これが大若子命に替わるのは、橋村正身の『神名帳考証再考』(明和六年、一七六九)以降であることは先に述べた。このことは世記が世に出てから百年後に、やっと櫛田神社の祭神を大若子命とする説が出てきたことを示している。益軒がもし『倭姫命世記』を見ていたとしても、専門家でない益軒が世記の内容から、櫛田神社の祭神は大若子命であるとの結論にたどり着くのは、極めて難しいといえる。

二つ目は、筑紫氏は指摘していないことではあるが、益軒が白井宗因の『神社啓蒙』を見て、櫛田神社の祭神を大若子命にしたとする場合である。この白井宗因は寛文七年(一六六七)の著書『神社啓蒙』のなかで、肥前神埼の祭神は大若子命であると述べていることは先に紹介した。この場合、益軒は従来から祀られている祭神に替えて、新しく大若子命を祭神として風土記に記載できるのか、という問題が出てくる。この『筑前国続風土記』は、時の藩主、黒田光之の命により編纂されたものであり、毎年山笠で賑わう櫛田神社の祭神については、当時の人々はおおむね知っていたはずである。そのような状況下で、祭神名を益軒の独断で変更出来ただろうかの問題が出てくる。これはやはり無理としか考えられない。

三つ目は、益軒は本当に『倭姫命世記』を目にしていたのかという問題である。この問題を解く鍵となるのは、益軒が風土記に大若子命は即ち大幡主命であることを紹介している命名譚である。この命名譚は世記には記載されておらず、『豊受太神宮禰宜補任(ぶにん)次第』に記されているものである。益軒は『筑前国続風土記』にこの命名譚を紹介し

ている以上、この補任次第を当然目にしていたことになる。然しながら、もし、益軒が『倭姫命世記』を目にしていたとすれば、新しい文献として何かを引用して紹介しているはずである。しかし、残念ながら、これは何も見当たらない。このことから、益軒は世記を見ていない可能性が出てくることになる。

以上の三点から、筑紫豊氏の、“櫛田神社の祭神は、本来女神であったものを貝原益軒が『倭姫命世記』に基づいて大若子命に替えた”とする説には無理があることになる。このように見てくると江戸時代において、博多の櫛田神社の祭神は大若子命であり、このことは長く伝承されてきたと考えられる。これにより、櫛田神社の祭神については、

— 奈良時代の祭神が大若子命であると推定され、江戸時代の祭神も同じで、更に現代においても同一であることから考えると、櫛田神社の主祭神は、大若子命、或いは大幡主命で一貫していた —

と考えられる。

これで博多の櫛田神社についての検討を終わるが、その内容をまとめると次のようになる。

— 博多の櫛田神社の創建は極めて古いものと考えられ、七世紀には既に存在していたものと推定される。当初の祭神は伊勢から勧請された櫛玉命だったと考えられるが、その後、この櫛玉命は大若子命に替えられた。その理由は、伊勢の櫛田神社で櫛玉命から大若子命に替えられた理由と同じだったと考えられる。即ち、「出雲隠し」事件に対処するため、当時、急速に中央で名声が高まり、尊崇されるようになってきた大若子命を採用したということである。伊勢の櫛田神社から大若子命が勧請された時期は、博多の櫛田神社の創建とされる天平宝字元年(七五七)のことであったといえる。その後、大若子命が現代に至るまでこの神社の主祭神となっているが、かつての祭神である櫛玉命は、天照大神に名を替えて今日に至っている。—

なお、櫛田神社の祭神女神説は根強いものがあり、この問題については、これから検討する佐賀県神崎の櫛田神社の影響を大きく受けていることから、改めてそこで論じることにする。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

PVC Award 2019 が「新しい時代を Create する PVC 製品」をテーマとして 6 月 1 日から公募を開始 (募集期間: 2019 年 6 月 1 日~10 月 31 日)。対象は、軟質から硬質まで塩ビの特長と機能性を活かし、販売開始 5 年以内の商品、及び商品化を予定している製品を募集し、市場性、機能性、独創性、環境性に優れた製品を選出し表彰 (大賞賞金: 100 万円) します。詳しくは web サイトをご覧ください (<http://www.pvc-award.com/>)。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
